

サッカーの基本戦術を理解するための教材開発

榎原 潔*

(平成22年9月28日受付；平成22年10月25日受理)

要 旨

これまでのボール運動や球技の授業では、実際のゲームと無関係に個々の技術が指導され、その技術がゲームに生かされないケースやゲームを楽しむだけで終わっているケースが見られるとし、これらの問題解決に戦術アプローチの有効性が指摘された。これまで、多くの戦術学習の成果や実践例が体育関連雑誌や研究論文などに掲載されているが、サッカーの戦術的課題とそれらの解決のための戦術との関係が整理された上で練習用のゲームが提示されているとは言えない。本研究は、プレイヤー間の協力の仕方を最もシンプルに理論化していると考えられるウエイドのチームプレイの原則を基に、中学生を対象としたサッカーの戦術学習のための教材を開発した。攻撃戦術（ドリブル、横パス、ワンツーパス、ポストプレイ、セントリング）と守備戦術（遅らせる、ゴール前に戻る、カバーリング、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス）の戦術リスト及び練習用のゲームを作成した。

KEY WORDS

サッカー (Soccer)

戦術アプローチ (Tactical approach)

チームプレイの原則 (Principle of team play)

タスクゲーム (Task games)

教材開発 (Development of teaching materials)

1 緒 言

高橋は、これまでのボール運動や球技の授業では、実際のゲームと無関係に個々の技術が指導され、その技術がゲームに生かされないケースやゲームを楽しむだけで終わっているケースが見られるとし、これらの問題解決に戦術アプローチの有効性を指摘した⁽¹⁾。

戦術アプローチによるゲームの指導理論は、グリフィンら (1999)⁽²⁾ によって理論的、実践的検証が進められた。そこでは、「ボールをもたない動き」と「ボールを操作する技術」からなる「ゲームパフォーマンス」を向上させることが目標とされ、具体的なレッスン・プログラムが提示された。また、ある状況において「何を行う必要があるのか」、「なぜそれを行うのか」を問い、これらの問題に関わる「発問」と「応答」を例示した。すなわち、当該のプレイを行う必然性についての認識を形成することが主要な課題として位置づけられた。これ以降、児童・生徒が技能の差に関係なくボール運動や球技を楽しみながら学ぶには、戦術的な課題の解決の仕方をゲームを通して学習する戦術学習が有効であるとし、多くの研究や実践例が報告されるようになった。

その中でサッカーに関する実践例や研究も数多く報告されている。松本ら (2001)⁽³⁾ は、攻撃的戦術行動はシュート直前のプレーパターンに出現すると考え、実際の試合場面を分析した。その結果、シュートに至る攻撃戦術として①ドリブル、②スルーパス、③オーバーラップ、④ワンツー、⑤ポスト、⑥スクリーンを導き出し、体系化している。世羅 (2003)⁽⁴⁾ は、高校生女子がフライングディスクを用いて、オープンスペースを利用することを課題としたゲームやグループ戦術の学習をすることによって、自由になる空間を見つけてシュートまでもっていく戦術行動が、サッカーのゲームにも現れるようになったことを報告している。鎌田ら (2004)⁽⁵⁾、滝澤ら (2005)⁽⁶⁾ は、小学校5年生を対象として、シュートするための有効な空間に侵入し、ボールを保持することを戦術的課題とした「ドーナツボール」¹⁾と修正されたゲームの実践を報告している。菅沼ら (2008)⁽⁷⁾ は、小学校高学年を対象として、サイドからの横パス・シュート・チャンスの創造を課題とした「セントリング・サッカー」について、ゲーム様相のパターン、サポート行動の成功率及び形成的授業評価の観点からその有効性を検討している。吉永ら (2009)⁽⁸⁾ は、小学校

*芸術・体育教育学系

5年生を対象としたサポートを学習内容とした「ドリルゲーム」²⁾と「タスクゲーム」³⁾及び攻撃側に数的優位を持たせるアウトナンバーゲームを実践し、ゴール型ゲームに対しサポート学習が有効であることを明らかにしている。岡田(2010)⁹⁾は、小学校高学年を対象として、堀邊(2010)¹⁰⁾は、中学生を対象として、サポートを戦術課題としたサッカーの「タスクゲーム」と「ドリルゲーム」及び授業展開例を紹介している。このように多くの戦術学習の成果や実践例が体育関連雑誌や研究論文などに掲載されているが、サッカーの戦術的課題とそれらの解決のための戦術との関係が整理された上で課題が誇張されたゲームや「タスクゲーム」が提示されているとは言えない。

ケレン(1998)¹¹⁾は、ゴール型チームゲームでは攻撃の課題としてa.防御ラインを破る(ノーマーク)、b.人数的優位をつくる(オーバーナンバー)、c.空間的優位をつくる(オープンスペース)を挙げ、このような課題を解決するために、戦術(個人、グループ、チーム)が考え出され、それにしたがって攻撃が展開されると述べている。また、攻撃の課題を達成させないことが守備の課題であるとしている。つまり、「サポート」は攻撃の戦術的課題の1つであり、その課題を解決するためのチームとしての方法がチーム戦術であるということが出来る。さらに、戦術はある状況において最善の方法として有効性が認められ、しかも普遍性を持ったプレイの方法¹²⁾として、同じチームのメンバーだけでなく、他の学習者にも共通認識が可能なものである必要がある。

2 ウエイドのチームプレイの原則

図1にウエイド¹³⁾のチームプレイの原則を示した。瀧井(1990)¹⁴⁾は、サッカーにおけるゲームの系統発生、個体発生及びチームプレイの原則の相互関係を検討した結果、チームプレイの原則は、ゲームの実際を通して経験的に得られた認識が一般化され、理論として構築された「戦術の原則」と解釈できるとしている。さらに、戦術とはゲームにおける協力の仕方に関する一般化された認識とした上で、ウエイドのチームプレイの原則が、プレイヤー間の協力の仕方を最も簡潔に理論化していると指摘している¹⁵⁾。

これまでのサッカーに関する戦術学習に関する研究や報告を概観した結果、ウエイドのチームプレイの原則が普遍性のあるチーム戦術であることが明らかとなった。本研究は、ウエイドのチームプレイの原則に基づき、中学生を対象としたサッカーの戦術学習のための教材を開発した。

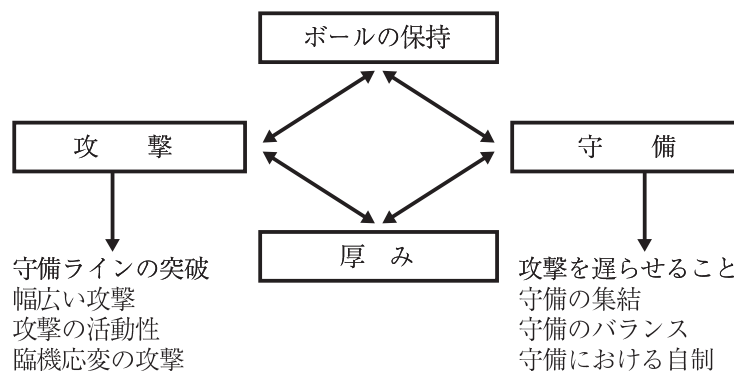


図1. チームプレイの原則

3 戦術リストの作成

チームプレイの原則の中から、攻撃戦術として「守備ラインの突破」、「攻撃の厚み」、「幅広い攻撃」、「攻撃の活動性」を取り上げた。また、守備戦術として「攻撃を遅らせること」、「守備の厚み」、「守備の集結」、「守備のバランス」を取り上げた。しかし、これらの用語は一般の生徒にとっては馴染みのないものが多く、どんなプレイがそれぞれの戦術に当たるのかイメージできないと考える。そこで、それぞれの戦術を学習参考書や技術指導書に使われているプレイに置き換えて命名することとした。

大澤(2006)¹⁶⁾はサッカーの攻撃戦術として「ドリブル突破」、「壁パス」、「スルーパス」、「オーバーラップ」、「クロスオーバー」及び「センタリング」を挙げている。また、守備戦術として「マンツーマンディフェンス」と「ゾー

ンディフェンス」を挙げている。大石ら (1983)⁽¹⁷⁾ は、ウエイドのチームプレイの原則を実行する具体的なプレイとして「ドリブル」、「壁パス」、「スルーパス」、「くさびのパス」、「サイドを変えるクロスパス」、「ロビングパス」、「横パス」、「ポジションチェンジ」、「スライド」、「ローテーション」、「スクリーン・プレー」、「オーバーラッピング」、「すばやく戻る」、「マーク」、「カバー」、「バランス」、「絞る」、「すぐに追う」、「マンツーマンとカバー」、「マークのスイッチ」、「ゴール前を固める」などを挙げている。

これらを参考に本研究では、表1のように命名することとした。

さらに、戦術名、実施方法と留意点、その戦術が有効な状況、典型的な場面の模式図を一覧にした戦術リストを作成した(図2-1、図2-2)。

表1. 戦術名一覧

| 攻撃戦術 | 命名された戦術名 | 守備戦術 | 命名された戦術名 |
|----------|-------------|-----------|---------------------------|
| 守備ラインの突破 | ドリブル | 攻撃を遅らせること | 遅らせる |
| 幅広い攻撃 | 横パス, センタリング | 守備の集結 | ゴール前に戻る |
| 攻撃の活動性 | ワンツーパス | 守備のバランス | マンツーマンディフェンス ゾーンディフェンス |
| 攻撃の厚み | ポストプレイ | 守備の厚み | カバーリング |

4 練習用タスクゲームの作成

中学校学習指導要領解説保健体育編(2008)⁽¹⁸⁾によると中学1・2年生の指導では、ゴール前の空間をめぐる攻防についての学習課題を追求しやすいようにプレイヤーの人数、コート広さ、用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れ、ボール操作とボールを持たないときの動きに着目させ、学習に取り組ませることを強調している。そこで、それぞれの戦術を理解するためのタスクゲームを作成した(図3-1~図3-5及び図4-1~図4-5)。

作成したタスクゲームの特徴は以下の通りである。

- ① 通常授業で行うサッカーコートの半分の広さの設定で行える。
- ② 攻撃戦術の練習では、攻撃プレイヤーに時間的、空間的、精神的余裕を与えるため、守備プレイヤーの動ける範囲を制限する。
- ③ 攻撃側は、最終的にゴールにシュートすることを目的とする。
- ④ 守備側は、最終的に相手のボールを奪いコートの外に蹴り出すことを目的とする。
- ⑤ 攻撃の時には守備側が、守備の時には攻撃側が指導的役割を果たせるように、チーム内ゲーム⁽¹⁹⁾とする。

本研究では、サッカーの戦術学習のための教材を開発した。今後は、これらを授業でどのように利用するか、学習評価をどのようにするか、他のゴール型ゲームとどのように関連付けるかが研究課題となる。さらに、携帯型AV機器への対応やその有効性の検討が必要となることが予想される。

戦術リスト【攻撃編】

○ オフェンス ⊙ ティフェンス ● ポール 〰 ドリブル → パス ー ランニング

| 戦術名 | 実施方法と留意点 | 有効な状況 | 典型的な場面 |
|--------|---|--|--------|
| ドリブル | <ul style="list-style-type: none"> ・守備ラインの突破 ・スピードのあるドリブルでポールを運ぶ。 ・相手守備者が近いときは相手とポールの間に自分が入るように入る。 ・相手が守備にきたときにはボールが止められるようにドリブルする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向へのコースがあいている | |
| 横パス | <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い攻撃 ・ポールを持っている味方の真横にサポートする。 ・相手守備者のポジションの修正が間に合わない距離でサポートする。 ・攻撃戦術と組み合わせてゴールに近づく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポール保持者の前に相手守備者がいる ・横にフリーな味方がいる | |
| ワンツーパス | <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃の活動性 ・近い味方にパスを出しもう一度自分でパスをもらい相手をかかわす。 ・「ワン」のパスを出した後、兼早く前方のスペースに走り込む。 ・サポートしている味方はボールに寄りながら「ツー」のパスを出す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポール保持者の前に相手守備者がいる ・横にサポートしている味方にも相手マークがない ・相手のマークがしつかりしていてフリーな味方がいない | |
| ポストプレイ | <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃の厚み ・ポストは攻めていくゴールに背を向け味方の方を向いてパスを受け取る。 ・相手守備者の間を通すパスをねらう。 ・ポストがポールをキープしている間に素早く前方のスペースに走り込む。 ・味方向士が三角形を張つようにサポートする。 ・他の攻撃戦術と組み合わせてシュートをねらう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポール保持者の前に相手守備者がいる ・横にサポートしている味方にも相手マークがある ・ゴール前に味方より相手守備者が多く、攻撃の人数が足りない | |
| センタリング | <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い攻撃 ・サイドにいる味方はゴール前の様子が早えるようにパスを受け取る。 ・シューターはゴール前のスペースに走り込む。 ・シューターがしやすいように早く早いポールを入れる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ポール保持者の前に相手守備者がいる ・ゴール前から離れるがタッチライン際に味方がいる ・攻撃の人数が足りない ・相手ゴール前にスペースがある | |

図 2-1. 戦術リスト (攻撃編)




戦術リスト【守備編】

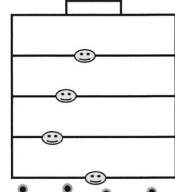
☺ ディフェンス 😊 オフェンス ● ボール 🌀 ドリブル → パス 🏀 ランニング

| 戦術名 | 実施方法と留意点 | 有効な状況 | 典型的な場面 |
|------------------|--|---|--------|
| ゴール前 運らせる | <ul style="list-style-type: none"> 攻撃を運らせる ゴールとボールを結んだ線上に位置する。 相手の横の動きには横に動いて対応する。 フェイントにかからないようにボールをみる。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手がドリブルで攻め込んでくる | |
| ゴール前に 戻る | <ul style="list-style-type: none"> 守備の集結 守備者の1人はボールを持った相手を選らせる。 他の守備者はまずゴール前に戻る。 ゴールを背にして守備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手がゴール前のスペースに長いパスを蹴り込んでくる | |
| カバーリング | <ul style="list-style-type: none"> 守備の厚み 守備者の1人はボールを持った相手を選らせる。 選らせている間に味方守備者が戻る。 マークする相手とボールが両方見えるようにポジションをとる。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手がドリブルやワンツーパスで攻め込んでくる | |
| マンツーマン ディフェンス | <ul style="list-style-type: none"> 守備のバランス 相手に対して一人ずつマークにつく。 相手が動いたらついていく。 マークする相手とボールが両方見えるようにポジションをとる。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手がしっかりマークしたい 相手があまりポジションチェンジをしない | |
| ゾーン ディフェンス | <ul style="list-style-type: none"> 守備のバランス 自分の守備範囲に入ってきた相手マークする。 相手が自分の守備範囲から出たらマークを受け渡す。 マークを受け渡す場合は味方同士声を掛け合う。 | <ul style="list-style-type: none"> 相手が横や斜めに大きく動く 相手のボールを奪ったとき攻撃に素早く移りたい | |

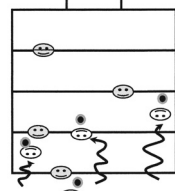
図 2-2. 戦術リスト (守備編)

ドリブル (オフェンス4人对ディフェンス4人、オフェンスチームは1人ボール1個)

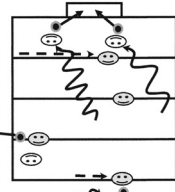
○ オフェンス ○ ディフェンス ● ボール  ドリブル  バス
 ランニング



<進め方>
 ①ディフェンスチームはライン上に1人ずつ立つ。
 ②オフェンスチームは1斉にスタートし、ドリブルでラインを越えゴールにシュートする。



③オフェンスチームは相手のいないところをみつけてドリブルでラインを越える。






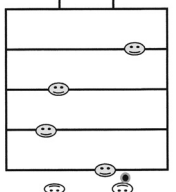
④ボールをコート外に出された場合はスタートに戻る。
 ⑤全員が3回挑戦し終わったら攻守を交代する。
 ⑥得点の多かったチームの勝ち。

<ルール>
 ①ディフェンスはライン上を横に動く。
 ②ラインはドリブルで突破する。
 ③ラインを4本突破した後シュートできる。

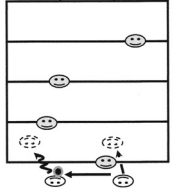
図3-1. 練習カード
攻撃戦術 (ドリブル)

横パス (オフェンス2人对ディフェンス4人、ボール1個)

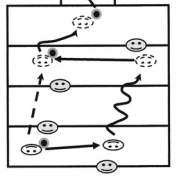
○ オフェンス ○ ディフェンス ● ボール  ドリブル  バス
 ランニング



<進め方>
 ①ディフェンスチームはライン上に1人ずつ立つ。
 ②オフェンスチームはバスやドリブルを使ってラインを突破しゴールに近づきシュートする。
 ③ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コート外にボールを蹴り出す。



④オフェンスチームがボールを動かしたらゲーム開始。
 ⑤ボールを持っているオフェンスは前がよいければドリブルで、あいていなければバスをする。
 ⑥オフェンスチームのもう1人はボールを持っている味方の横にサポートする。






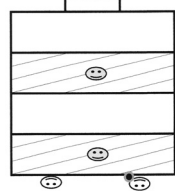
⑦シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
 ⑧チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
 ⑨得点の多かったチームの勝ち。

<ルール>
 ①ディフェンスはライン上を横に動く。
 ②ラインはバスやドリブルで突破する。
 ③ラインを4本突破した後シュートできる。

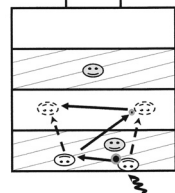
図3-2. 練習カード
攻撃戦術 (横パス)

ワンツーパス (オフェンス2人对ディフェンス2人、ボール1個)

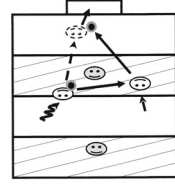
○ オフェンス ○ ディフェンス ● ボール  ドリブル  バス
 ランニング



<進め方>
 ①ディフェンスチームは斜線のエリアに1人ずつ位置する。
 ②オフェンスチームはバスやドリブルを使ってエリアを突破しゴールに近づきシュートする。
 ③ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コート外にボールを蹴り出す。



④オフェンスチームがボールを動かしたらゲーム開始。
 ⑤ボールを持っているオフェンスが相手に向かってドリブルする。
 ⑥ボールを持っているオフェンスはボールをパスした後、素早く前方のスペースに走りこむ。
 ⑦ボールを受けた味方は素早く前方のスペースにバスする。






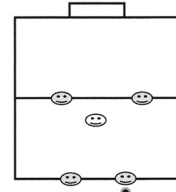
⑧シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
 ⑨チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
 ⑩得点の多かったチームの勝ち。

<ルール>
 ①ディフェンスは斜線の範囲を動く。
 ②エリアはバスまたはドリブルで突破する。
 ③エリアを2つ突破した後シュートできる。

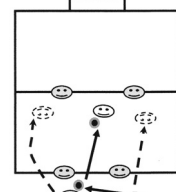
図3-3. 練習カード
攻撃戦術 (ワンツーパス)

ポストプレイ (オフェンス3人对ディフェンス4人、ボール1個)

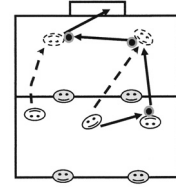
○ オフェンス ○ ディフェンス ● ボール  ドリブル  バス
 ランニング



<進め方>
 ①ディフェンスチームはライン上に2人ずつ位置する。
 ②オフェンスチームからラインとラインの間に1人位置する。
 ③オフェンスチームはバスやドリブルを使ってラインを突破しゴールに近づきシュートする。
 ④ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コート外にボールを蹴り出す。



⑤オフェンスチームがボールを動かしたらゲーム開始。
 ⑥オフェンスはポストマンに縦バスを入れる。
 ⑦ポストマンがボールをキープしている間に、素早く次のエリアに走りこむ。



⑧シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
 ⑨チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
 ⑩得点の多かったチームの勝ち。

<ルール>
 ①ディフェンスはライン上を動く。
 ②ラインはバスで突破する。
 ③ラインを2本突破した後シュートできる。
 ④ポストマンはシュートできない。

図3-4. 練習カード
攻撃戦術 (ポストプレイ)

センタリング
(オフェンス4人対ディフェンス4人、ボール1個)

○ オフェンス ○ ディフェンス ● ボール ドリブル バス
 ランニング

<進め方>
①ディフェンスチームは斜線のエリアに1人と実線上に2人、点線上に1人位置する。
②オフェンスチームはラインとラインの間の灰色エリアに1人位置する。
③オフェンスチームはバスやドリブルを使ってサイドに展開しセンタリングされたボールをシュートする。
④ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コートの外にボールを蹴り出す。

⑤オフェンスチームがボールを動かしたらゲーム開始。
⑥オフェンスチームは攻撃戦術を使って灰色エリアに入る。
⑦オフェンスチームの4人の中から1人サイドに出てバスを受ける。

⑧サイドのオフェンスはゴール前に走り込む味方にセンタリングをあわせる。
⑨シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
⑩チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
⑪得点の多かったチームの勝ち。

<ルール>
①ディフェンスは斜線エリア内及びライン上を動く。
②センタリングを受けてからのシュートのみ得点とする。

図3-5. 練習カード
攻撃戦術 (センタリング)

遅らせる (オフェンスチームは1人ボール1個)

○ ディフェンス ○ オフェンス ● ボール ドリブル バス
 ランニング

<進め方>
①ディフェンスチームはライン上に1人ずつ位置する。
②オフェンスチームは1人にスタートし、ドリブルでラインを越えゴールにシュートする。

③ディフェンスチームは相手の正面に立って相手のドリブル突破を防ぐ。

④ボールをコートの外に出された場合はスタートに戻る。
⑤全員が3回挑戦し終わったら攻守を交代する。
⑥失点の少なかったチームの勝ち。

<ルール>
①ディフェンスはライン上を横に動く。
②ラインはドリブルで突破する。
③ラインを4本突破した後シュートできる。

図4-1. 練習カード
守備戦術 (遅らせる)

ゴール前に戻る (オフェンス3人対ディフェンス3人、ボール1個)

○ ディフェンス ○ オフェンス ● ボール ドリブル バス
 ランニング

<進め方>
①ディフェンスはコート内に1人、コートの角に2人位置する。
②ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コートの外にボールを蹴り出す。
③オフェンスチームはバスやドリブルを使ってゴールに近づきシュートする。

④オフェンスチームがコート内に入ったらゲーム開始。
⑤オフェンスチームの1人がボールを持っている相手の正面に立って遅らせている間に、あとの2人はゴール前に戻る。
⑥ディフェンスはゴールを背にし、ボールと相手が見えるようにポジションをとる。

⑦シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
⑧チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
⑨失点の少なかったチームの勝ち。

<ルール>
①オフェンスは灰色のエリア内でシュートする。

図4-2. 練習カード
守備戦術 (ゴール前に戻る)

カバーリング (オフェンス2人対ディフェンス2人、ボール1個)

○ ディフェンス ○ オフェンス ● ボール ドリブル バス
 ランニング

<進め方>
①オフェンスとディフェンスがお互いに向い合った状態でスタートする。
②ディフェンスチームは相手チームのボールを奪い、コートの外にボールを蹴り出す。
③オフェンスチームはバスやドリブルを使ってゴールに近づきシュートする。

④オフェンスチームがコート内に入ったらゲーム開始。
⑤ディフェンスチームの1人がボールを持っている相手の正面に立つ。
⑥ディフェンスチームのもう1人はその後ろをカバーする。
⑦このときボールともう1人のオフェンス両方がみられるようにポジションをとる。

⑧横バスが出たらカバーをしていたオフェンスがボールを持っている相手の正面に立ち、もう1人がその後ろをカバーする。(役割を交代する)
⑨シュートが決まったりボールがコート外に出たら他のメンバーと交代する。
⑩チームで4回挑戦し終わったら攻守を交代する。
⑪失点の少なかったチームの勝ち。

<ルール>
①オフェンスは5本以上バスをしてからシュートする。

図4-3. 練習カード
守備戦術 (カバーリング)

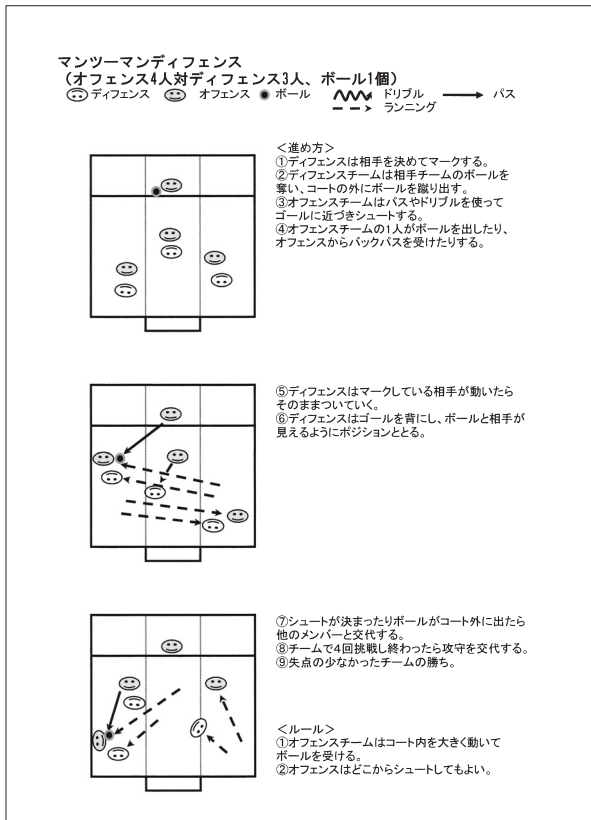


図4-4. 練習カード
守備戦術 (マンツーマンディフェンス)

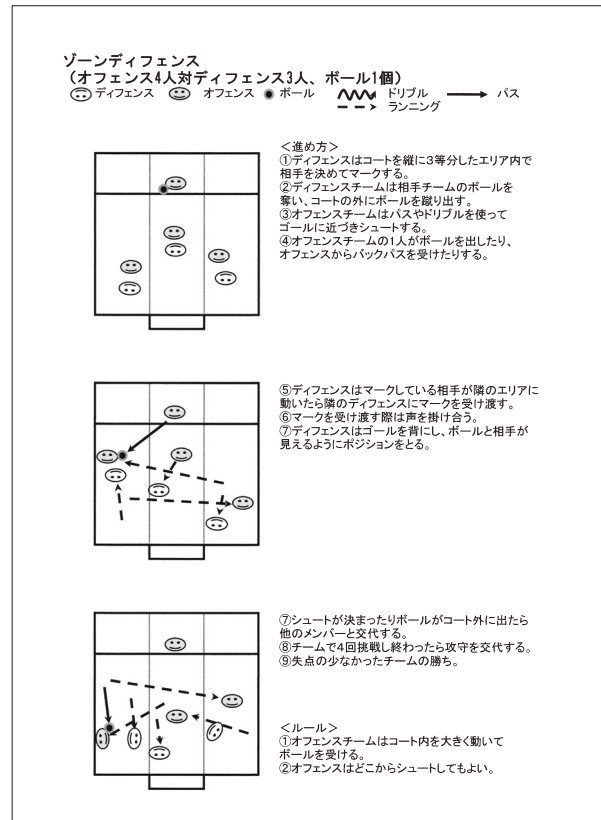


図4-5. 練習カード
守備戦術 (ゾーンディフェンス)

注

- 1) 「ドーナツボール」とは、柔らかくて弾まない円盤型のクッションのことである。このボールを使用するねらいは、弾まないためボール操作が容易になること、ボールに対する恐怖心を取り除くこと、が挙げられている。⁽⁵⁾
- 2) 個人の技能向上を目指して繰り返し行うゲーム化した練習のこと。⁽²⁰⁾
- 3) 技術的・戦術的学習課題が明確で、その課題が目的的に学習されるゲームのこと。⁽²⁰⁾

文 献

- (1) リンダ・L・グリフィンほか：高橋健夫・岡出美則監訳（1999）ボール運動の指導プログラム．大修館書店，東京，訳者まえがき．
- (2) リンダ・L・グリフィンほか：高橋健夫・岡出美則監訳（1999）前掲書
- (3) 松本 靖・後藤幸弘（2001）サッカーの攻撃戦術体系試案—技能レベルの異なるゲームに現れる戦術行動の分析から—．兵庫教育大学実技教育研究，15：49-58．
- (4) 世羅晶子（2003）サッカーにおけるグループ戦術学習—フライングディスクを用いて—．広島大学附属中・高等学校研究紀要，50：25-30．
- (5) 鎌田 望・岩田 靖（2004）小学校体育におけるサッカーの教材づくりとその検討—「侵入型ゲーム」としての戦術的課題を誇張する視点から—．信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 教育実践研究，5：71-80．
- (6) 滝澤 崇・細江拓郎・岩田 靖・玉置 龍（2005）小学校体育における侵入型ゲームの教材づくりに関する検討—「明示的誇張」の効果の視点から—．信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 教育実践研究，6：121-130．
- (7) 菅沼太郎・岩田 靖・千野孝幸（2008）小学校体育におけるゴール型教材の開発とその実践的検討：「センタリング・サッカー」の構想とその分析．信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 教育実践研究，9：121-130．
- (8) 吉永武史・馬場智哉（2009）サポート学習による小学校5年生のサッカーの授業実践とその成果．体育科教育，57(11)：16-19．

- (9) 岡田光靖 (2010) サッカー, 高橋健夫ほか編著「新学習指導要領準拠 新しいボールゲームの授業作り」. 体育科教育別冊, 58(3):74-79.
- (10) 堀邊英明 (2010) サッカー, 高橋健夫ほか編著「新学習指導要領準拠 新しいボールゲームの授業作り」. 体育科教育別冊, 58(3):80-85.
- (11) ヤーン・ケルン:朝岡正雄・水上 一・中川 昭監訳 (1998) スポーツの戦術入門. 大修館書店:東京, pp.39-40.
- (12) 中川 昭 (1995) 球技における作戦と指導. 学校体育, 48(4):66-69.
- (13) アラン・ウエイド:浅見俊雄訳 (1973) イングランド・サッカー教程. ベースボール・マガジン社:東京, pp.3-48.
- (14) 瀧井敏郎 (1990) 戦術の運動学的認識, 金子明友・朝岡正雄編著「運動学講義」. 大修館書店:東京, pp.76-87.
- (15) 瀧井敏郎 (2003) サッカーにおける戦術学習の視点に基づくゲームパフォーマンスの評価. スポーツ運動学研究, 16:37-48.
- (16) 大澤英雄 (2006) サッカー, 波多野義郎ほか編著「ワンダフルスポーツ」. 新学社:東京, pp.155-174.
- (17) 大石三四郎・山中邦夫 (1983) 現代スポーツコーチ実践講座9 サッカー. ぎょうせい:東京, pp.212-240.
- (18) 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説保健体育編. 東山書房:東京, p.84.
- (19) 土田了輔 (2008) 体育の学習集団編成に関する研究. 上越教育大学研究紀要, 27:217-224.
- (20) 齋藤勝史・鬼澤陽子 (2006) ゲームに活きる「タスクゲーム」とその扱い方. 体育科教育, 54(6):32-35.

Development of teaching materials for understanding fundamental tactics of soccer

Kiyoshi SAKAKIBARA*

ABSTRACT

In the past ball games in Physical Education classes, there were many cases that the children learned individual technique without any relation to an actual game. In another case they only enjoyed playing a game. A lot of study showed that the tactical approach was effective to solve those problems in PE. Many results and examples of tactical approach were published in the magazines and the research papers related to PE. But these researches didn't clear the tactics that solved tactical tasks. The principle of team play that Allen Wade had proposed simply showed theories of the cooperation of players. It was cleared the principle of team play (penetration, width, mobility, depth, etc) were fundamental tactics of soccer to solve the tactical tasks.

This study developed the teaching materials based on the principle of team play to learn tactics of soccer for junior high school students. The list of the tactics for the attack (dribbling, sideways pass, one-two pass, post play, centering) and for the defense (delay, back to the goal, covering, man-to-man defense, zone defense) and the games for the practice were created.

* Music, Fine Arts and Physical Education